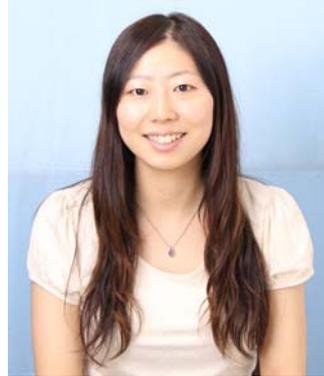


ふりがな 氏名	こだ れみ 小田 玲実	都道府県 北海道	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナヒヤ基金 事務局長/中国内モンゴル担当 ・酪農学園大学 国際交流サークル SukaRela 副顧問 		
私のESD活動	中国内モンゴルの沙漠化地域、フィリピンの台風被災地での環境保全活動を通じ、国際協力に感心ある大学生を育成		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が事務局長を務める「ナヒヤ基金」は、中国・内モンゴル自治区の沙漠化地域をはじめ、マレーシア・ボルネオ島、フィリピン・セブ島と、気候変動に伴う自然災害や人間活動によって環境問題が起きている地域で活動を行っている。

中国・内モンゴル自治区では、大規模な開拓による過放牧・過開墾が原因で土地が劣化し、黄砂による砂丘の形成で農地や家が埋もれてしまい生活ができなくなるなどの問題が発生している。農業ができないことで貧困になり、貧困家庭の子どもたちは学校に通えない。そこで、地域住民と協力して植林を実施し、また農地も計画的に利用することで過開墾を防ぐなど、土地劣化を防止する取り組みを2005年から開始した。植林に使用する苗木は地元の小中学生が育て、当基金が買い取る。この代金は学校で管理され、貧困家庭の児童の奨学金や学校設備の補修等に充てられている。現在は緑化が進み、学習環境も改善されつつある。

フィリピン・セブ島では2013年11月に発生した大型台風30号の被災地域で活動を行っている。セブ島北部では、人的被害は少なかったものの、住居やインフラ、主要産業である果樹が大きなダメージを受け、日常生活が送れず、また経済活動も出来なくなってしまった。そこで、現地の小学校や村議会と協力し、果樹の再生や住民の防災意識を高める活動を行っている。

また、私は酪農学園大学国際交流サークル SukaRela の副顧問を務めている。学生たちとともにナヒヤ基金の活動に取り組んだり、日常的に留学生との交流をさせたりと、国際理解の促進に取り組んでいる。彼ら若い世代に少しでも多くのきっかけを与え、国際協力の現場に出られる人材の育成に努めている。

○「ナヒヤ基金 Facebook」 <https://www.facebook.com/nahiyafund/>

○「酪農学園大学国際交流サークル SukaRela Facebook」 <https://www.facebook.com/SukaRela.RGU/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思えますか？

ナヒヤ基金のネットワークを活かして、活動地と日本の計4カ国による学校教員向けシンポジウムを開催したい。それぞれ気候や環境問題も異なるため、それぞれの国で起きていることを相互に理解し、環境問題はその国だけの問題ではないということを各国の子供達に知ってほしい。教員やカウンターパートの担当者は、相互に意見交換をし、地元での活動に活かしてほしい。

酪農学園大学国際交流サークル SukaRela はRCE道央圏に所属しており、さまざまなESD実践団体・学校と交流を持つことができる。北海道の内向きの若者の多くは、道外や海外で行われるカンファレンスやユースサミット等への参加に消極的である。その理由を聞くと、「どうせ東京の偏差値が高い有名大学の学生しか選ばれない」、「万が一選ばれても恥ずかしくて大学名を言えない」、「他の参加者とのレベルが違いそうでディスカッションできない」といった、自信のなさや情報不足から来るものと考えられる意見が多かった。北海道から、あるいは地方の有名ではない大学から参加者が増え、翌年の応募者にアドバイスをする仕組みができれば、もっと自信を持って様々なプログラムに参加できるのではないだろうか。本学の学生らのナヒヤ基金の活動への取り組み、その他学生が主体的に参加可能な国際協力に関わる活動等を、学生目線で継続的に発信し、大学生どうして様々なプログラムへの参加をアドバイスし合う仕組みづくりを提案していきたい。